

積雪森林地帯における雪面からのCO₂フラックスCO₂ efflux from snow surface in a southern boreal forest in Hokkaido, Japan

兒玉 裕二 [1]

Yuji Kodama[1]

[1] 北大・低温研

[1] ILTS, HU

積雪表面からのCO₂フラックスを2004年11月から2005年4月にかけて北北海道の母子里で観測した。観測期間の積雪表面からのCO₂フラックスは人工トウヒ林で107gCm⁻²、天然針広混交林で150gCm⁻²となった。また針広混交林で、年間CO₂フラックスは783gCm⁻²になり、積雪表面からのフラックスは約23%を占めた。乾雪期にはフラックスは積雪深や積雪水量、密度で比例したが、融雪期にはこれらの要素との関係は非常にばらつき、表面の含水量と相関が認められた。